

少し遅くなりましたが、7月23日（土）に行われた棟方志功展記念講演会「棟方志功と青森」について、ご報告します。

講師としてお招きしたのは、青森にある棟方志功記念館の館長補佐、武田公平氏です。



今回の展覧会は、「東北復興支援特別企画」として開催されていることから、テーマも本展の主旨とぴったりです。

講演では、棟方の生い立ちや画業、そして津軽をテーマにした作品について様々なエピソードを盛り込んでお話ししていただきました。

そのお話の中で、個人的に特に心に残ったエピソードをご紹介します。

それは「オモダカ」という草花と棟方の出会いです。

三枚の花びらの白い小さな花が咲くオモダカ。

小学の頃、棟方は転んだ傍らにこの小さな花を見つけました。花の美しさに感動した棟方は、この素朴な美しさを表現するために絵を描こうと思ったそうです。

武田さんは、「視力の弱かった棟方にとってオモダカ存在はなかなか気づきにくい。偶然転んで発見したオモダカの小さな存在が、棟方を画家へと導いた。こうした偶然が起これなければ、棟方がこれほどに偉大な芸術家になっていただろうかと想像すると、人生とは不思議なもの」と述べられていました。

小学生の棟方が小さな花に感動している様子を想像すると、なんともほほえましいですね。

その姿は、版画家としてのひたむきな制作にもつながっているような気がします。

そして、この講演会の最後にも東北復興支援のための募金へのご協力をお願いし、24820円集まりました。ご協力ありがとうございました。

皆さまのあたたかい想いが東北に届きますように。

(MR. M.)